

(人吉高等学校定時制課程) 令和6年度(2024年度)学校評価表

1 学校教育目標					
教育綱領「礼節」「勤労」「進取」のもと、人吉・球磨地域にある普通科の定時制の高校として、多様な個性・価値観を認め合い、豊かな情操と道徳心を養うとともに郷土への熱い思いをもって活躍し、人吉・球磨地域の復興と発展を支える人材を育成します。そのため、多様な生徒の学習形態に対応した教育活動の実践や、進路実現に向けた勤労観・職業観など、身につけるべき資質・能力の確実な定着を図り、その能力を最大限に引き出すことができる教育を目指します。今後は、ICTを積極的に活用しながら学習活動を進めるとともに、地域理解と自己理解を目指す探究学習を通して、人吉・球磨地域を中心とした地域振興に積極的に取り組むために必要な力を育てる、特色ある学びを展開します。					

2 本年度の重点目標					
熊本県教育委員会から示された「令和6年度(2024年度)県立中学校・高等学校における教育指導の重点」の趣旨に沿い、全職員が一丸となり、本校定時制に学ぶ生徒たちの現状を踏まえ、以下の項目の実現に努める。					
(1) 授業改革・確かな学力の育成 (2) 生徒指導・生徒支援の充実・基本的生活習慣の確立					
(3) キャリア教育の推進・進路指導の充実 (4) 学校行事の活性化 (5) 業務改善・生徒と向き合う時間の確保・働き方改革の推進					

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校経営方針	学校組織の円滑な運営と活性化	スクール・ミッションの内容と本校の課題が共有され、課題解決に向けた共通実践が行われている状態	①スクール・ミッションに照らし合わせた行事ごとの振り返りを学期ごとに検討し、改善案を次年度の実施要項等に反映させる。 ②各部会の課題や検討内容を、週に1回開催する部長会で情報共有し、チームとして対応できる職員集団を形成する。	A	①スクール・ミッションについては職員会議で繰り返し確認し、全職員で共有しながら業務を進めることができた。行事ごとの振り返りを学期ごとに行い、次年度への引継ぎ資料を作成することができた。 ②部長会で主任・主事の情報共有と各分掌の連携を深めることができた。
	魅力ある学校づくり	魅力化と情報発信	本校の魅力について、広く認識された状態	①人気便りを毎月発行し、ホームページへの掲載や学校説明会等での配付を行う。また、ホームページのブログ(楽しくNight)を行事後1週間以内に更新し、本校の教育活動や特色を校内外に発信する。 ②総合的な探究の時間や生徒会行事を中心として地域と連携した教育活動をさらに充実させる。	B	①各種通信、地元新聞等を通して、生徒の様子を発信することができた。実践発表会では、昨年までの探究活動の成果を発表した。ホームページの更新回数がやや減少したため、今後頻繁に更新していきたい。 ②総合的な探究の時間では、進路に応じた探究分野を地域の中から見出して活動を行った。生徒会行事で地域理解の時間を設けることができた。今後も地域と連携した教育活動を計画ていきたい。
	業務改善 働き方改革	生徒と向き合う時間を確保するための工夫	校務の削減等が進み、職員	①ICT機器の活用により、さらに	B	①会議資料のデータ化及び各種アンケート等のICT活用に

		夫	の時間外勤務時間が法令で定められた上限の範囲内となつた状態	ペーパレス化を進め、業務の効率化を図る。 ②S H R 等において担任・副担任の連携を強化し、業務の平準化・効率化に取り組む。		より、業務の効率化とペーパレス化をさらに進めることができた。定時退勤に対する職員の意識も高まり、時間外勤務時間は月平均9時間58分と、法令で定められた上限を大きく下回っている。 ②教職員の連携はとれているものの、業務の偏りがややあるため、業務の平準化に向けたさらなる取組が必要である。
学力向上	授業改革	授業の改善	主体的で対話的な学びの実践することで生徒が意欲的に授業に参加している状態	①一人一台端末等の I C T 機器を活用し、生徒が対話をしながら「学びの楽しさ」や「学びの意義」を感じ、「達成感」を味わう魅力ある授業づくりに取り組む。 ② I C T の活用等テーマを絞った研究授業と合評会の実施、研修会等に参加し、授業力の向上及び改善に取り組む。	A	①教師の I C T 機器利活用の意識が高まり、様々な取組が見られた。学校評価アンケートでは過去のデータと比較しても高い評価であった。工夫された授業づくりが多くできるようになってきている。 ②共通テーマを設定し、公開授業や研究授業を行った。教師一人一人の授業力向上及び I C T 機器活用に向けての取組を実施することができた。
	確かな学力の育成	個に応じた学習指導	生徒一人ひとりの学習面における課題や習熟状況を把握し、個に応じた学習指導がなされている状態	①各教科で個に応じた学習指導を実践するため、生徒一人ひとりの課題や習熟状況に応じた教材づくり等を行う。 ②長期休業期間に生徒の習熟度に応じた「オーダーメイド学習課題」を課し、生徒一人ひとりの基礎学力向上を図る。	B	①各教科で一人ひとりの実態に応じた学習指導を実施するために工夫を行った。学校評価アンケートでは高い評価であった。 ②「オーダーメイド学習課題」を設定したが生徒の習熟度に差が見られなかったため、全科目で一律の課題を設定した。今後メリット、デメリットを整理し、より良い形で再検討していきたい。
	指導と評価の一体化	学習評価のあり方について工夫・改善がみられる状態	①観点別評価やポートフォリオ評価について研究を進める。 ② I C T を活用しシラバス帳をどこでも活用できるようにする。単元や内容のまとめごとの評価方法を研究する。 ③個に応じた適切な評価の在り方を研究し実践する。	①観点別評価、ポートフォリオ評価ともに研究を進めているところであるが、各教科1名が担当しているため、妥当性の検討があまりできていないところが課題となっている。 ②シラバスを電子化して活用した。来年度は全ての学年が新教育課程の実施となるので準備を進めて	B	

						いく。 ③少人数という利点を生かし、個に応じた評価の在り方の研究を進めていく。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の充実	基礎的・汎用的能力の育成	年次に応じた将来展望と実現に向けて、客観的な視野を持ち、主体的に取り組める状態	①生徒との面談を通して、生徒の進路希望を把握した上で、発達段階に応じたキャリア教育を考察し、実践する。 ②個々の進路希望に応じて本校の個別支援プログラムである「人定アドバンスプロジェクト」を企画、実施する。	B	①卒業学年に関しては、前年度からの活動を保護者と連携して充実することができたが、進路に直面していない保護者との連携については、再考する必要を感じた。 ②卒業学年については、個別指導プログラムを作成し、計画通りにプログラムを遂行することができた。
	探究活動の充実	キャリア教育と探究活動の連動性を明確にし、進路選択に活かせるようにする状態	キャリア教育と探究活動の連動性を明確にし、進路選択に活かせるようにする状態	①今年度から開始する、進路希望を意識した地域探究活動、「人定郷義館プロジェクト」を起動し、その体制をつくる。 ②ゼミ形式をとることで、生徒が一人で探究するではなく、協力や相談しあうことで、客観的な視野を身に付ける。	B	①1年生は「地域理解」をテーマに探究活動を実施、2年生以上は地域を媒介にした材料で、自らの進路目標に関する探究を実施した。 ②2年生以上は探究をしたい分野ごとにゼミを組織し、卒業予定者は成果発表、卒業予定者中間発表という形で準備を進めた。今年度から取り組んだ活動であり、反省点等を再考して、次年度以降に、より充実した活動にしたい。
	進路目標の達成	進路指導体制の構築	すべての生徒の環境を把握し、卒業予定者の進路達成100%を叶える状態	①外部の機関、学校、事業所との連携を図り、生徒の進路希望を実現する。 ②生徒の特性や適性に応じた就労支援の体制を構築する。	A	①生徒の希望する進路先や外部機関と連携を図り、人定アドバンスプロジェクトにおいて、個別対応を充実することで、3年連続で全員が進路先を確保できた。 ②ハローワークや外部機関との連携、保護者を含めた3者面談の実施等の早期対策を行なった。
生徒指導	個性の伸長	生徒理解の深化	生徒の特性や能力、可能性などが把握され、尊重された状態	①あらゆる機会を捉えて、生徒の特性や能力等を見いだすことに努め、生徒が能力を發揮し、伸ばす機会を設定する。 ②職員の間で生徒情報の交換、共有する機会を、年間を通じて設定し、生徒の可能性を伸ばす手立てを講じ	B	①人定祭や生徒会行事など生徒が個性を發揮する場面を設定することができた。それらの活動を通して、多くの生徒が達成感を味わうことができた。今後、全ての生徒にとって教育活動が主体的なものとなるために、より生徒理解を深め、適切な場面設定や課題

			る。		設定に取り組む。 ②週に1回、全職員での生徒情報連絡会を設け、実施することができた。共有した情報を生徒指導に効果的に生かすことができた。	
自己指導能力の育成	自己肯定感の高揚	生徒の自己肯定感が高まつた状態	①生徒のよさを見いだし、認め、褒め、励ます教育実践に努める。 ②一人ひとりの生徒に応じて適切な課題を設定し、スマーブルステップで課題を乗り越え、多くの成功体験を積むことができるよう支援する。	A	①生徒の日頃の様子などの情報を共有して職員間で連携し、生徒の教育活動の充実に取り組むことができた。 ②授業や学校行事、生徒会活動の中でICT機器等を積極的に活用することで、生徒に個別の課題を設定することができた。	
	自己決定力の育成	生徒が自己実現に向けて前進している状態	①様々な教育活動の場面で、生徒が自ら選択する機会を設ける。 ②対話の機会の設定や、ICT機器を活用した活動を取り入れることで生徒が主体的に生徒会活動を行うことができるよう支援する。	B	①人定祭や生徒会行事等において、生徒たち自らが自身の役割を考え、組織で活動する機会を設けることができた。 ②GoogleClassroomやホワイトボードアプリなどの活用によって、生徒一人一人が主体的に取り組む活動を設けることができた。多くの生徒が学校行事等に主体的に取り組むことができたが、アンケート結果では生徒の一部はあまりできていないと回答があるため、一層生徒理解を深め、場面設定や課題設定を適切に行う努力の必要がある。	
人権教育の推進	人権を尊重する意識の高揚	教科指導・HR指導における取組の推進	教職員みずから人権についての認識を深めて実践することで、生徒が人権についての正しい理解と認識を身に付ける状態	①生徒に向けての人権教育ホームページや講演会については、より深い人権に関する認識を得るために、事前に職員研修の機会を設ける。 ②教材研究を行う上で、各教材に込められた人権問題を読み取り、授業を展開するように心がける。	B	①講演会や職員研修で話を聞いたり職員同士で意見交換をしたりする中で、人権問題について認識を深めた。 ②職員研修で人権問題について触れ、各教科においても人権問題を意識した授業を開催している。今後は年度当初にさまざまな人権問題について各教科でどのように取扱うことができるかを全体で検討できる機会を設けたい。
	「命を大切にする心を育む」指導	生命を尊重する意識の高揚	命の大切さや環境保全などについて指導	①自己有用感や自己肯定感の高揚を図るため、面談等	B	①人権教育講演会や心のきずなを深めるLHR、面談等を実

			し、人権尊重やいじめ防止の教育において、さまざまな学習方法で、意識を高める状態	においては、生徒の意見を肯定的にとらえ、将来に対して夢がもてるような指導を行い、各自の進路保障につなげる取組を行う。 ②授業において、身近なことを課題として設定することで自らのこととして捉え、積極的な課題解決を行うことで、自己肯定感を培う。 ③生徒の心身の状態を把握するため、各学期に一回、心とからだのアンケートを実施する。	施し、自己有用感や自己肯定感の高揚を図り、各自の進路保障につなげる取り組んだ。講演会やＬＨＲで学んだことを実際に生かすことのできる実践を計画していきたい。 ②各教科での授業や合同ＳＨＲで身近な人権問題に触れる機会を設けたが、今後は定期的に人権問題に関する話題の提供を行いたい。 ③年に3回、心と体の振り返りシートや心のアンケートを実施し、生徒の心身の状態を把握するよう努めた。生徒に課題が見つかった場合、すぐに対応できるように検討していきたい。
いじめの防止等	いじめの早期発見	いじめの認知と対処	日頃からの生徒との信頼関係の構築に努め、生徒の変化について、常に情報交換ができる状態	①各担任による面談に加え、各部による面談（年6回）を行い、生徒からの情報を共有することにより、早期対応を行う。 ②定期的に生徒情報連絡会を開催し、生徒の状況を共有し、全職員で生徒を見守る環境をつくる。	A ①担任や各部の面談に加え、給食の時間などを利用し生徒が気軽に職員と交流する時間を作ることができた。 ②毎週金曜日に生徒情報連絡会を欠かさず実施し、生徒に関する情報を全職員で共有した。
	いじめの未然防止	望ましい人間関係づくり	全校集会や学級活動において日常的にいじめ問題について触れ、いじめを許さない雰囲気をつくる状態	①生徒会で「いじめゼロ宣言」を前期と後期にそれぞれ制定し、月に1度、合同ＳＨＲの時間を利用して、定期的に周知徹底する。 ②「心のきずな月間」において全生徒を対象に、仲間づくりを目的とする取組を実施する。	B ①生徒会で「いじめゼロ宣言」の宣言項目を制定し、全生徒で共有することができた。生徒会役員を中心に関連する機会を設けることができた。次年度は、生徒会を中心とした新たな啓発活動を実施したい。 ②自己理解、他者理解を深めることを通じた仲間づくりのための授業を全生徒で取り組み、学年を超えた交流ができた。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	社会に開かれた学校づくり	総合型コミュニケーションスクールの推進	総合型コミュニケーションスクールとして、特に定時制の学校として地域に求められていることの明確化と解決	①進路学習や総合的な探究の時間、生徒会活動において、地域との連携を意識した活動を行う。 ②学校運営協議会を通じた課題の把	A ①学年でテーマに応じた総合的な探究活動ができた。進路講演会を通して、くま川鉄道の現状と地域の復興状況を知ることができた。 ②講演会等では、極

		策が示された状態	握とその解決に取り組む。 ③学校ホームページを頻繁に更新することで、教育活動を積極的に外部へ発信していく。		力地域の方を講師としてお招きし、生徒たちが地域に貢献できることを考える機会を確保した。今後は、生徒たちが地域に足を運んで行う活動を増やしていきたい。 ③生徒の活動の様子を随時ホームページに掲載している。今後も、総合的な探究の時間等の成果物を積極的に外部へ発信していきたい。
	保護者との連携	保護者の学校活動への理解と積極的な参加が行われている状態	①秀麗会役員への電話連絡や「すぐ一る」を活用し、密に情報提供を行うことで各種行事への保護者の積極的な参加を促す。 ②秀麗会役員、保護者として具体的に何ができるかを示すことで参加しやすい環境づくりを行う。	B	①役員への連絡や保護者へのメールを活用し、行事の案内を行った。人定祭などの大きな行事への保護者参加は見られたが、各種講演会や公開授業等の参加率が上がらなかった。 ②生徒会行事（ビストロ人定やレクリエーション）を保護者参加型にできないか検討中である。来年度は早めに計画し、保護者が参加できる環境づくりを行いたい。

4 学校関係者評価

(1) 学校経営

- ・時間外勤務時間の削減に取り組まれ、成果が着実に上がっている。職員全員で生徒の指導に当たるという姿勢で業務の偏りを少しでも解消してもらいたい。
- ・人吉球磨地域で唯一の定時制として存在意義は大きく、多様性を尊重した学校経営に引き続き期待したい。

(2) 学力向上について

- ・公開授業を参観し、ICT機器を活用して、生徒が主体的に取り組む授業をされて素晴らしいと感じた。そのような結果が学校評価アンケートにも表れている。
- ・個に応じた学習指導の充実に向けて工夫改善しながら取り組まれている様子が窺える。

(3) キャリア教育（進路指導）について

- ・個別指導プログラムや探究したい分野ごとにゼミを行うなど、様々な取組がなされていて大変良い。ゼミ形式の取組は生徒の主体性の育成にもつながることから、継続した取組に期待したい。
- ・3年連続で全員の進路先を確保できたことは素晴らしい。卒業後の把握もお願いしたい。

(4) 生徒指導について

- ・生徒が個性を發揮する場面を設けることが、生徒の成長に大きな影響を与えると思われる。
- ・週1回の生徒情報連絡会は、生徒を理解し、指導に生かすうえで大変重要だと思う。
- ・SNSをはじめとするスマホの利用については継続した指導をお願いしたい。
- ・ボランティア意識の向上のため、定義を明確にし、ポイント制にしたらどうか。

(5) 人権教育の推進について

- ・人権教育の推進のためには生徒の自己有用感や自己肯定感を高めることが大切である。先生方が共通理解を図りながら地道に指導していただきたい。

(6) いじめの防止等について

- ・学校と生徒会がともに取り組んでいるところが良い。

(7) 地域連携について

- ・保護者が少しでも学校へ足を運んで、子供の姿を見ることはとても大切なことだと思う。
- ・小規模の良さを生かした地域連携・保護者連携を引き続き期待したい。

5 総合評価

(1) 学校経営について（「働き方改革」への取組も含む）

「学校経営方針」に関しては、部長会を毎週設定し、主任・主事の情報共有と各分掌の連携を図ることにより、教育活動の組織的な実施につなげた。「魅力ある学校づくり」は、今年度もホームページや地元新聞、各種通信等を通して、生徒の様子を発信したが、ホームページの更新回数が昨年度よりやや減少した。「業務改善・働き方改革」は、ＩＣＴ機器も活用しながら業務の効率化を進め、定時退勤に対する職員の意識も高まり、時間外勤務時間は昨年度と同様に法令で定められた上限を大きく下回った。

(2) 学力向上について

学校評価アンケートでは「ＩＣＴの活用等、わかりやすい授業の工夫がされ、意欲的・主体的に参加できる授業が行われている」という項目で、生徒・保護者のすべてが「肯定的な回答をしており、ＩＣＴ活用が進んだ結果といえる。また、「個に応じた学習指導」に関しても、生徒・保護者ともに全員が肯定的な回答であり、教職員の日頃の取組が生徒・保護者に十分伝わっていると感じられる。「指導と評価の一体化」については、観点別評価の体制を早めに整え取り組んできた。それぞれの教科担当者が1名のみのため、今後は、他校の取組等を研究し、本校独自の評価方法の確立に努めたい。

(3) キャリア教育（進路指導）について

「基礎的・汎用的能力の育成」では、卒業学年への対応は十分にできたが、1・2年の生徒・保護者との連携にやや課題が残る。早い段階で、将来について意識できるような指導の必要がある。「探究活動の充実」については、今年度から「郷義館プロジェクト」と題して地域の課題などから個人の探究分野を決めて活動を行い、2月中旬に校内成果発表会（中間発表）を行った。発表方法・内容とともに個人差があつたため、今後改善し来年度へつなげたい。昨年度に引き続き「人定アドバンスプロジェクト（個別指導）」を充実させ、卒業予定者全員が10月には進路を決定することができた。

(4) 生徒指導について

「個性の伸長」に関して、生徒理解に力を入れ、週に一回の生徒情報連絡会において、全職員で生徒の状況を把握し共有しながら適切な指導にあたることができるように努めている。また、学校行事では、生徒が個性を発揮し、生徒自らが考える機会を設けることができ、多くの生徒が達成感を味わうことができた。生徒対象の学校評価アンケートの「学校行事への主体的な参加」において、1名だが否定的な意見があつたため、来年度はさらに生徒が自主的に参加できる行事を目指したい。

(5) 人権教育の推進について

全教科、全領域において、人権教育につながる指導を行うことができた。職員に関しては、人権問題を意識した授業づくりについての職員研修を年度当初に行なうことが課題であり、生徒に対しては、授業や講演会で学んだことを実践する場を提供することが課題である。

(6) いじめの防止等について

「早期発見」については、年に3回行なう心のアンケートのほか、定期的な面談の実施で生徒の状況を把握し、毎週実施している生徒情報連絡会において、職員間で情報を共有することができた。学校評価アンケートでも「面談等を通じて悩みを相談しやすく、いじめの未然防止と早期発見に向けた取組が効果的に行われている」の項目に対し、生徒全員が肯定的な回答をしており、生徒と教職員との関係は良好である。「未然防止」については、生徒による「いじめゼロ宣言」など啓発活動を行なっているが、学校評価アンケートの三者比較において、三者に意識のずれが大きい項目でもあった。来年度は新たな啓発活動を考え、生徒が楽しく学校生活を送ることのできる雰囲気作りに努めたい。

(7) 地域連携（コミュニティ・スクール）について

昨年度、「地域貢献について考える機会を設けることも必要である」との指摘をいただいたため、講演会では極力地域の方を講師に招いて、地域貢献について考える機会を確保した。保護者との連携については、生徒会行事を含め、様々な行事で保護者の方々が参加しやすい環境づくりを検討中である。

6 次年度への課題・改善方策

【課題1】

総合的な探究の時間「郷義館プロジェクト」の充実

【改善方策】

今年度から実施している探究活動であるが、成果（中間）発表会では、発表方法・内容とともに個人差が見られた。来年度は、自身による問い合わせや教員からの問い合わせをうまく活用して探究活動を進められるようサポートしたい。また、地域の課題に関する内容も多く見られるため、地域に足を運んで探究する時間も確保したい。

【課題2】

人権教育ＬＨＲや講演会で学んだことを実践する場の設定

【改善方策】

自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を養うようなＬＨＲや講演会を行なったが、それを実践する場面の設定機会が少なかった。生徒会活動や地域へ足を運ぶ機会を活用し、それらを実践する企画の確保に努めたい。

【課題3】

保護者の学校行事への参加

【改善方策】

行事ごとに保護者へ参観の案内等を行っているが、特定の保護者の参加にとどまっている。人定祭（文化祭）や生徒会行事で、生徒と保護者がともに活動できる内容を検討していきたい。